

鉄源流通量調査結果（2016 暦年）

1. 主要指標

2016年（平成28年）の主要指標を図表1に示した。

2016年の粗鋼生産量は2年連続の前年減となる1億477万トンとなった（対前年36万トン減、同0.3%減）。炉別に見ると、転炉は3年ぶりの前年増となる8,151万トン（同44万トン増、同0.5%増）、電炉は2年連続の前年減となる2,326万トン（同80万トン減、同3.3%減）となった。

国内の鉄スクラップ購入量は2年連続の前年減となる2,185万トン（同17万トン減、同0.8%減）となった。内訳を見ると、域内調達量は2年連続の前年減となる1,879万トン（同16万トン減、同0.8%減）、域内調達率は2年ぶりの低下となる86.0%（同0.1ポイント低下）となり、域外調達量は2年連続の減少となる306万トン（同1万トン減、同0.4%減）となった。一方、炭素鋼スクラップ（HSコード：7204.41.000、7204.49.100、7204.49.200、7204.49.900）の輸出量は2年連続の前年増となる852万トン（同95万トン増、同12.6%増）となった。

スクラップ出荷量合計（購入量と輸出量の合計）は4年ぶりの前年増となる3,036万トン（同78万トン増、同2.6%増）となった。

図表1 主要指標推移

		単位: 1,000M.T. %					
		2013年	2014年	2015年	2016年	対前年	
						増減	%
スク 国 ラ ッ プ	購入量	24,216	24,681	22,015	21,845	▲ 169	-0.8%
	域内調達量	20,618	20,767	18,947	18,789	▲ 158	-0.8%
	(域内調達率)	85.1	84.1	86.1	86.0	▲ 0.1	-0.1%
	域外調達量	3,598	3,913	3,068	3,057	▲ 11	-0.4%
輸出量 ¹⁾		7,938	7,193	7,563	8,515	952	12.6%
出荷量計 ²⁾		32,154	31,874	29,577	30,360	783	2.6%
転炉粗鋼生産量		85,680	84,987	81,077	81,513	436	0.5%
電炉粗鋼生産量 ³⁾		24,915	25,679	24,057	23,261	▲ 796	-3.3%
粗鋼生産量計		110,595	110,666	105,134	104,774	▲ 360	-0.3%

* 対象は全て炭素鋼スクラップのみ

1) HSコード：7204.41.000、7204.49.100、7204.49.200(2015年1月以降)、7204.49.900の合計

2) 出荷量計＝国内購入量＋輸出量

3) 電炉粗鋼生産量＝粗鋼生産量計－転炉粗鋼生産量

製鋼法別のスクラップ消費量（購入スクラップの他、自家発生スクラップなどを含む）を図表2に示した。

クォーターてつげんVol.62 2014秋号の特集記事3で示したように、2014年1月の「生産動態統計」の改正により、銑鉄の全国消費量・在庫量、転炉、電炉、鋳物用等の需要部門別消費量・在庫量が把握出来なくなり、銑鉄消費量、銑鉄配合比、鉄屑配合比の算出が不可能となった。従い、以下スクラップ消費量に関してのみ記述する。

転炉のスクラップ消費量は、3年ぶりの前年増となる969万トン（対前年107万トン増、前年比12.4%増）、電炉のスクラップ消費量は、2年連続の前年減となる2,388万トン（同102万トン減、同4.1%減）となった。

図表2 製鋼法別スクラップ消費量

単位：1,000M.T(スクラップ原単位はkg)、%

	転炉					電炉				
	粗鋼生産量	鉄源消費量	スクラップ消費量	スクラップ原単位	スクラップ配合率	粗鋼生産量	鉄源消費量	スクラップ消費量	スクラップ原単位	スクラップ配合率
2012年	82,307	89,797	9,426	114.5	10.5%	24,925	26,414	26,131	1,048.4	98.9%
2013年	85,680	93,251	10,484	122.4	11.2%	24,915	26,504	26,168	1,050.3	98.7%
2014年	84,987	n.a.	10,365	122.0	n.a.	25,679	n.a.	26,505	1,032.2	n.a.
2015年	81,077	n.a.	8,622	106.3	n.a.	24,057	n.a.	24,904	1,035.2	n.a.
2016年	81,513	n.a.	9,694	118.9	n.a.	23,261	n.a.	23,882	1,026.7	n.a.
対前年(増減)	436		1,072	12.6		▲ 796		▲ 1,022	▲ 8.5	
(%)	0.5%		12.4%			-3.3%		-4.1%		

データ出所：経済産業省

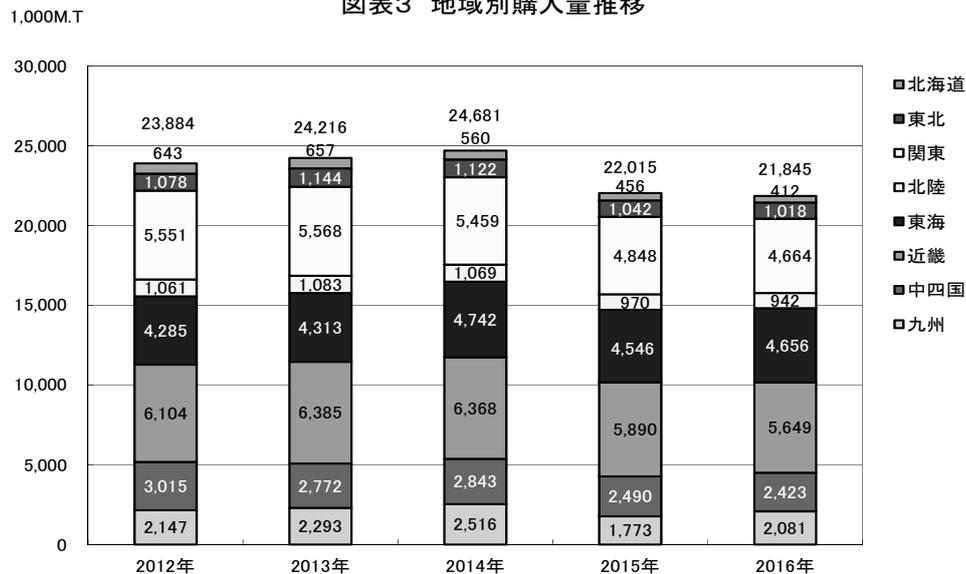
* 2014年1月の統計調査改正により、鉄源消費量・スクラップ配合率の算定が不能となった

2. 地域別購入量と地域間流通量

地域別鉄スクラップ購入量の推移を図表3に示した。

国内の購入量合計は2年連続の前年減となる2,185万トン（対前年17万トン減、同0.8%減）となった。地域別に見ると、北海道は3年連続の前年減となる41.2万トン（同4.3万トン減、同9.5%減）、東北も3年連続の前年減となる101.8万トン（同2.4万トン減、同2.3%減）、関東も3年連続の前年減となる466.4万トン（同18.4万トン減、同3.8%減）、北陸も3年連続の前年減となる94.2万トン（同2.8万トン減、同2.9%減）と減少したが、東海は2年ぶりの前年増となる465.6万トン（同11.0万トン増、同2.4%増）と増加に転じた。また、近畿は3年連続の前年減となる564.9万トン（同24.0万トン減、同4.1%減）、中四国は2年連続の前年減となる242.3万トン（同6.7万トン減、同2.7%減）と減少したが、九州は2年ぶりの前年増となる208.1万トン（同30.8万トン増、同17.3%増）となった。

図表3 地域別購入量推移



図表4 鉄源の地域別流通状況 (2016年)

単位: 1,000M.T, %

出荷元 メーカー所在地	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	その他	(構成比) A 国内スクラップ 購入量計	C 他地区 から流入量 A-B	域外調達率 C/A	D 域内 調達率 B/A
北海道	B 【410.9】			1.5						(1.9) 412.4	1.5	0.4	99.6
東北		B 【835.1】	167.0	11.9	4.1					(4.7) 1,018.1	183.0	18.0	82.0
関東		74.8	B 【4,583.1】	2.4	1.3	0.7			1.9	(21.4) 4,664.3	81.1	1.7	98.3
北陸		99.0	35.4	B 【715.3】	92.2					(4.3) 941.9	226.6	24.1	75.9
東海	3.0	3.6	116.2	23.9	B 【4,473.0】	32.1	2.2	2.1		(21.3) 4,656.3	183.2	3.9	96.1
近畿			173.2	128.3	312.8	B 【4,131.8】	725.2	178.1		(25.9) 5,649.4	1,517.6	26.9	73.1
中四国		1.2	31.5	4.1	50.2	100.8	B 【1,746.6】	482.9	5.2	(11.1) 2,422.5	675.9	27.9	72.1
九州	1.1	1.1	15.4		2.4	1.9	136.4	B 【1,892.9】	29.3	(9.5) 2,080.5	187.7	9.0	91.0
(構成比)	(1.9)	(4.6)	(23.4)	(4.1)	(22.6)	(19.5)	(11.9)	(11.7)	(0.2)	(100.0)			
G 国内向出荷計	415.0	1,014.8	5,121.9	887.4	4,936.1	4,267.4	2,610.5	2,556.0	36.4	21,845.4	3,056.7	14.0	86.0
H 他地区へ 流出量 G-B	4.1	179.7	538.8	172.2	463.1	135.6	863.8	663.1	36.4	3,056.7			
域外出荷率 H/G	(1.0)	(17.7)	(10.5)	(19.4)	(9.4)	(3.2)	(33.1)	(25.9)	(100.0)	(14.0)			
純流出量 H-C	2.6	▲ 3.3	457.7	▲ 54.5	279.8	▲ 1,382.0	188.0	475.4	36.4				
(構成比)	(6.1)	(7.8)	(39.4)	(5.1)	(16.7)	(9.8)	(3.9)	(11.3)		(100.0)			
I 輸出量	517.2	661.6	3,356.0	434.4	1,420.1	837.4	328.4	959.7		8,515.0			
(構成比)	(3.1)	(5.5)	(27.9)	(4.4)	(20.9)	(16.8)	(9.7)	(11.6)	(0.1)	(100.0)			
J 出荷量合計 G+I	932.2	1,676.4	8,478.0	1,321.9	6,356.2	5,104.8	2,938.9	3,515.7	36.4	30,360.4			

域内調達量【 】の計
18,788.6

注 B: 域内調達量【 】

調査対象事業所数:

1~3月期: 86事業所

4~6月期、7~9月期、10~12月期: 84事業所

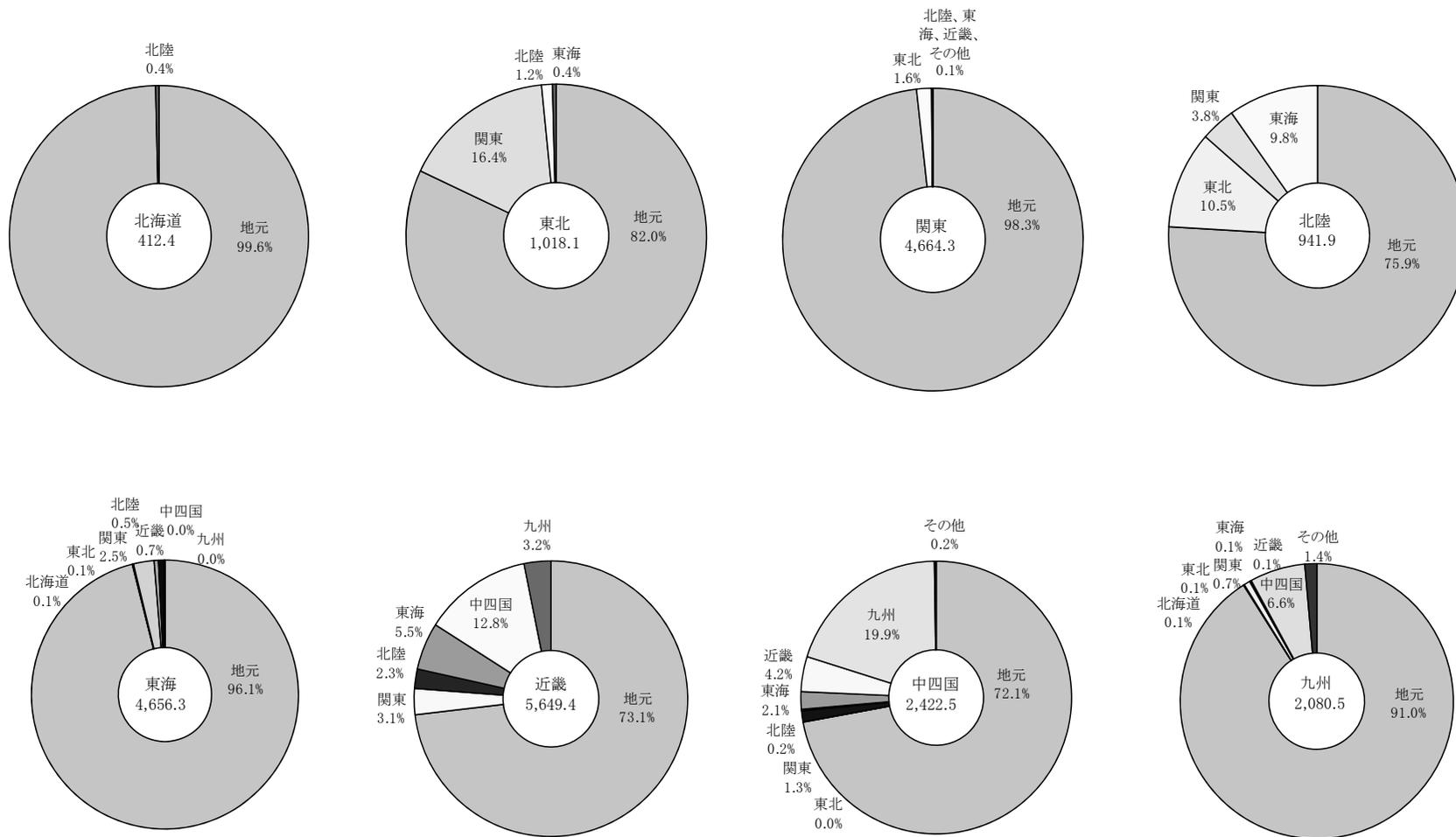
調査対象品種:

炭素鋼スクラップ

輸出货量: 切削くず及び打抜きくず(HSコード7204.41.000)+その他の鉄鋼くず(HSコード7204.49.100、7204.49.200、7204.49.900)

図表5 地域別購入量内訳（2016年）

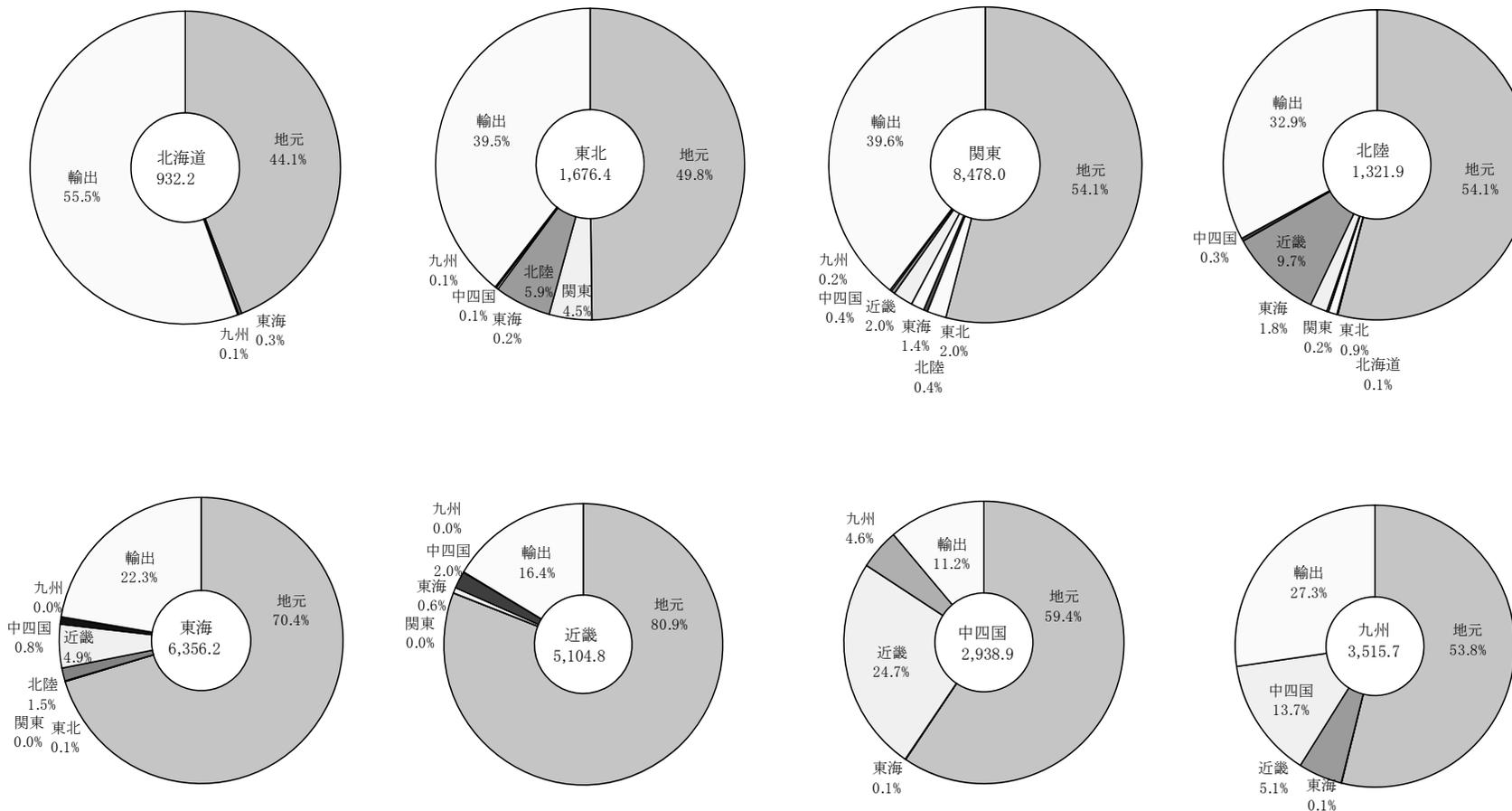
単位：1,000M.T



* 図表4に基づき作成

図表6 地域別出荷量内訳 (2016年)

単位: 1,000M.T



* 図表4に基づき作成

地域別の流通状況を図表4、図表5、図表6に示した。

域内調達量の合計は2年連続の前年減となる1,879万トン（対前年16万トン減、同0.8%減）となった。地域別に見ると、北海道は3年連続の前年減となる41.1万トン（同4.2万トン減、同9.3%減）、東北は2年連続の前年減となる83.5万トン（同7.1万トン減、同7.9%減）、関東は3年連続の前年減となる458.3万トン（同17.5万トン減、同3.7%減）となったが、北陸は3年ぶりの前年増となる71.5万トン（同1.6万トン増、同2.3%増）、東海は2年ぶりの前年増となる447.3万トン（同2.8万トン増、同0.6%増）と増加に転じた。近畿は5年連続の前年減となる413.2万トン（同7.8万トン減、同1.8%減）、中四国は2年連続の前年減となる174.7万トン（同6.9万トン減、同3.8%減）と減少が続いたが、九州は2年ぶりの前年増となる189.3万トン（同23.3万トン増、同14.0%増）となった。

全体の域内調達率は2年ぶりの低下となる86.0%（対前年0.1ポイント低下）であった。地域別に見ると、北海道は2年連続の上昇となる99.6%（同0.2ポイント上昇）、東北は6年ぶりの低下となる82.0%（同5.0ポイント低下）、関東は3年連続の上昇となる98.3%（同0.1ポイント上昇）、北陸は4年連続の上昇となる75.9%（同3.8ポイント上昇）、東海は2年ぶりの低下となる96.1%（同1.7ポイント低下）、近畿は2年連続の上昇となる73.1%（同1.7ポイント上昇）、中四国は3年ぶりの低下となる72.1%（同0.8ポイント低下）、九州は2年ぶりの低下となる91.0%（同2.6ポイント低下）となった。

地域間の流通量を図表7に示した。

西送り量合計は3年連続の前年減となる22.4万トン（対前年12.1万トン減、同35.2%減）となった。内、関東からの移出量は2年連続の前年減となる22.0万トン（同11.9万トン減、同35.0%減）であった。

3地域への流入量を見ると、近畿への流入量は2年連続の前年減となる151.8万トン（同16.3万トン減、同9.7%減）、内、西送り量は2年連続の前年減となる17.3万トン（同12.8万トン減、同42.6%減）、域外調達率は2年連続の低下となる26.9%（同1.7ポイント低下）となった。中四国への流入量は3年ぶりの前年増となる67.6万トン（同0.2万トン増、同0.3%増）、内、西送り量は6年ぶりの前年増となる3.3万トン（同0.5万トン増、同17.4%増）、域外調達率は3年ぶりの上昇となる27.9%（同0.8ポイント上昇）となった。九州への流入量は2年ぶりの前年増となる18.8万トン（同7.5万トン増、同66.0%増）、内、西送り量は2年ぶりの前年増となる1.8万トン（同0.2万トン増、同13.9%増）、域外調達率も2年ぶりの上昇となる9.0%（同2.6ポイント上昇）となった。また、3地域への流入量238.1万トンに占める西送り量22.4万トンのシェアは3年連続の低下となる9.4%（同4.6ポイント低下）となった。

関東からの移出量は2年ぶりの前年増となる53.9万トン（同0.7万トン増、同1.2%増）となり、輸出货量は3年連続の前年増となる335.6万トン（同29.0万トン増、同9.5%増）となり、移輸出货量合計では2年ぶりの前年増となる389.5万トン（同29.6万トン増、同8.2%増）となった。域外出荷率は2年ぶりの上昇となる10.5%（同0.5ポイント上昇）となった。

図表7 地域間流通量

単位：1,000M.T, %

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	対前年	
						増減	%
西送り量	479	755	741	345	224	▲121	-35.2%
内 関東から	389	675	701	339	220	▲119	-35.0%
近畿への流入量	1,283	1,634	1,880	1,680	1,518	▲163	-9.7%
内 西送り量	265	526	541	301	173	▲128	-42.6%
(域外調達率)	21.0	25.6	29.5	28.5	26.9	▲1.7	
中四国への流入量	776	853	844	674	676	2	0.3%
内 西送り量	193	106	75	28	33	5	17.4%
(域外調達率)	25.7	30.8	29.7	27.1	27.9	0.8	
九州への流入量	210	339	450	113	188	75	66.0%
内 西送り量	20	124	125	15	18	2	13.9%
(域外調達率)	9.8	14.8	17.9	6.4	9.0	2.6	
関東からの移出量	661	925	934	532	539	7	1.2%
輸出量	3,129	2,622	2,755	3,066	3,356	290	9.5%
移輸出計	3,789	3,548	3,688	3,598	3,895	296	8.2%
(域外出荷率)	10.8	14.5	14.8	10.1	10.5	0.5	

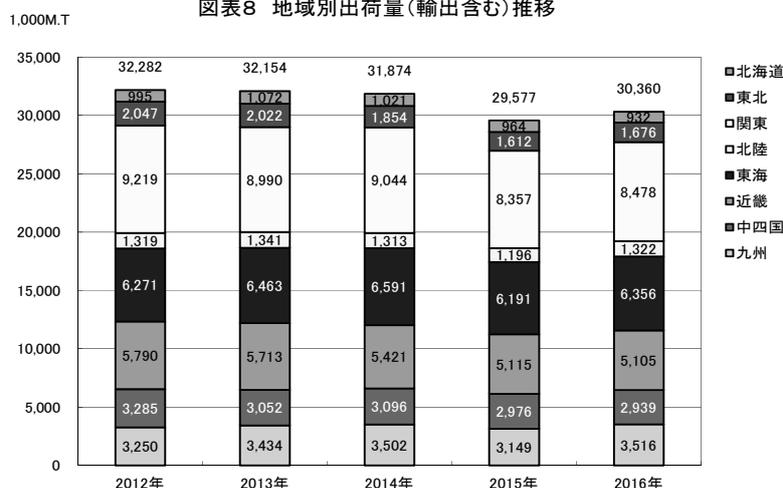
- * 西送りとは、「近畿・中四国・九州」が「関東・東北・北海道」から購入した量
- * 域外調達率＝他地域からの購入量／購入量合計
- * 域外出荷率＝国内他地域への移出量／国内向け出荷量計

3. 地域別出荷量と輸出量

地域別出荷量の推移を図表8に示した。

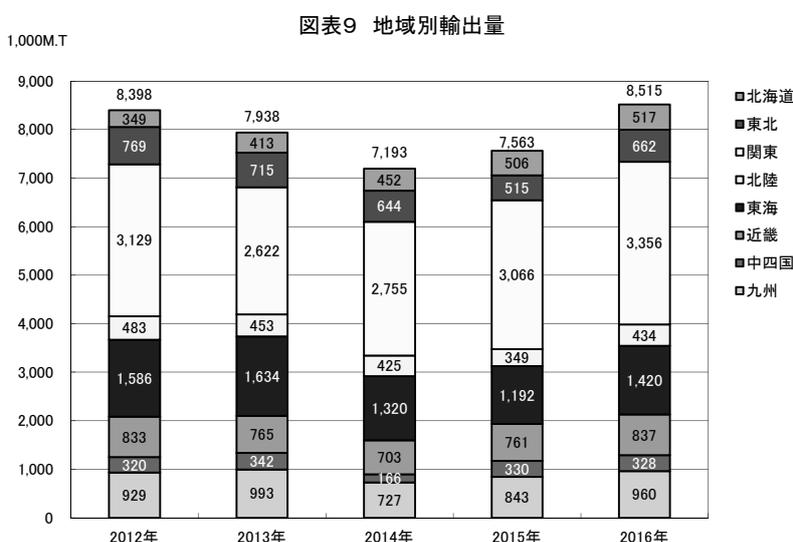
スクラップ出荷量合計は4年ぶりの前年増となる3,036万トン（対前年78万トン増、同2.6%増）となった。地域別に見ると、北海道は3年連続の前年減となる93.2万トン（同3.1万トン減、同3.2%減）、東北は4年ぶりの前年増となる167.6万トン（同6.4万トン増、同4.0%増）、関東は2年ぶりの前年増となる847.8万トン（同12.1万トン増、同1.5%増）、北陸は3年ぶりの前年増となる132.2万トン（同12.6万トン増、同10.6%増）、東海は2年ぶりの前年増となる635.6万トン（同16.5万トン増、同2.7%増）、近畿は4年連続の前年減となる510.5万トン（同1万トン減、同0.2%減）、中四国は2年連続の前年減となる293.9万トン（同3.7万トン減、同1.2%減）、九州は2年ぶりの前年増となる351.6万トン（同36.7万トン増、同11.6%増）となった。尚、シェアは北海道3.1%、東北5.5%、関東27.9%、北陸4.4%、東海20.9%、近畿16.8%、中四国9.7%、九州11.6%であった。

図表8 地域別出荷量(輸出含む)推移



地域別輸出量について図表9に示した。

炭素鋼スクラップの輸出量は2年連続の前年増となる852万トン（対前年95万トン増、同12.6%増）となった。地域別に見ると、北海道は4年連続の前年増となる51.7万トン（同1.1万トン増、2.2%増）、東北は4年ぶりの前年増となる66.2万トン（同14.7万トン増、28.5%増）、関東は3年連続の前年増となる335.6万トン（同29.0万トン増、9.5%増）、北陸は4年ぶりの前年増となる43.4万トン（同8.5万トン増、24.3%増）、東海は3年ぶりの前年増となる142.0万トン（同22.8万トン増、19.2%増）、近畿は2年連続の前年増となる83.7万トン（同7.6万トン増、10.0%増）、中四国は2年ぶりの前年減となる32.8万トン（同0.2万トン減、0.6%減）、九州は2年連続の前年増となる96.0万トン（同11.7万トン増、13.9%増）となった。尚、シェアは北海道6.1%、東北7.8%、関東39.4%、北陸5.1%、東海16.7%、近畿9.8%、中四国3.9%、九州11.3%であった。



4. 品種別・地域別国内購入量

品種別の購入量推移を図表10に示した。

国内の購入量合計は2年連続の前年減となる2,185万トン（対前年17万トン減、同0.8%減）となった。内、加工スクラップは2年ぶりの前年増となる680.7万トン（同27.7万トン増、同4.2%増）、老廃スクラップは2年連続の前年減となる1,504万トン（同45万トン減、同2.9%減）であった。加工スクラップが増加し老廃スクラップが減少したことから、加工スクラップ構成比は31.2%と、前年から1.5ポイント上昇した。

老廃スクラップでは、ヘビースクラップ（HS・H1・H2・その他）の購入量は1,231万トン（同43万トン減、同3.3%減）となった。ヘビースクラップの内訳を見ると、HSが3年ぶりの前年増となる317.6万トン（同14.3万トン増、同4.7%増）、H1が2年連続の前年減となる303.4万トン（同9.2万トン減、2.9%減）、H2も2年連続の前年減となる306.4万トン（同34.1万トン減、10.0%減）、その他ヘビースクラップも2年連続の前年減となる303.2万トン（同13.6万トン減、4.3%減）となった。なお、シュレッタースクラップは2年連続の前年減となる169.5万トン（同3.7万トン減、2.2%減）、プレススクラップは4年連続の前年減となる52.9万トン（同4.2万トン減、7.4%減）となった。

加工スクラップでは、新断スクラップは2年ぶりの前年増となる401.5万トン（対前年24.1万トン増、同6.4%増）、鋼ドライ粉は2年連続の前年減となる201.1万トン（同7.7万トン減、同3.7%減）、銑スクラップは2年ぶりの前年増となる78.2万トン（同11.3万トン増、同17.0%増）となった。

2016年の品種シェアは、配合甲山（可鍛コロ）0.2%、新断スクラップ（含新断プレス）18.4%、HS 14.5%、H1 13.9%、H2 14.0%、その他（H3、H4）13.9%、ヘビースクラップ計 56.3%、シュレッダースクラップ 7.8%、プレススクラップ 2.4%、鋼ドライ粉（含Dプレス）9.2%、銑スクラップ 3.6%となった。

地域別品種別の購入量を図表11に、同国内出荷量を図表12に、地域別品種別購入比率を図表13に、地域別品種別購入比率を図表14に示した。

図表10 鉄スクラップの品種別購入量推移

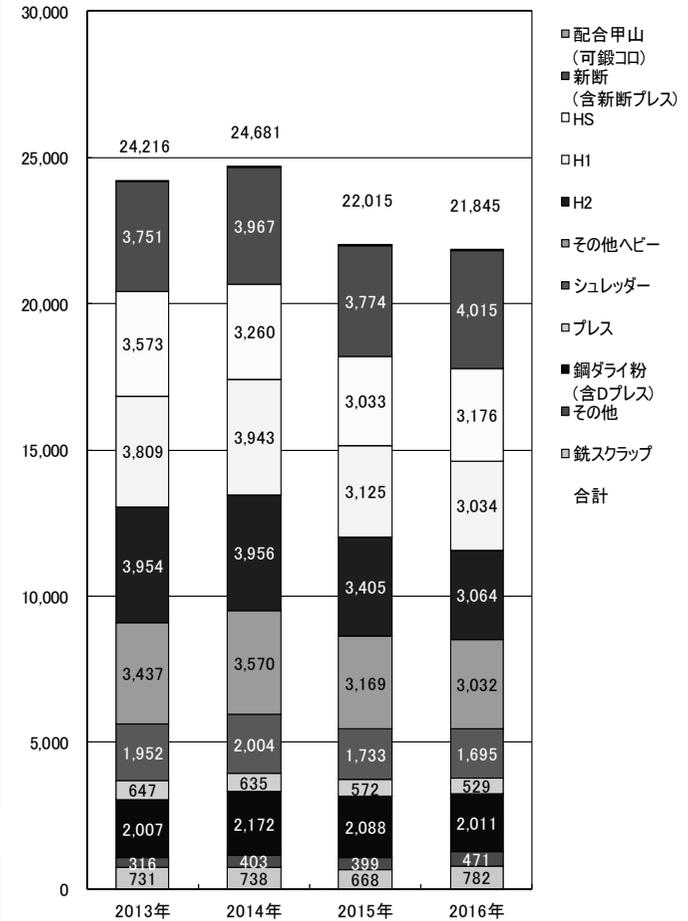
単位: 1,000M.T, %

品種		2013年		2014年		2015年		2016年			
		購入量	構成比	購入量	構成比	購入量	構成比	購入量	構成比		
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山(可鍛コロ)	39	0.2	34	0.1	48	0.2	35	0.2	
		新断スクラップ(含新断プレス)	3,751	15.5	3,967	16.1	3,774	17.1	4,015	18.4	
		ヘビースクラップ	HS	3,573	14.8	3,260	13.2	3,033	13.8	3,176	14.5
			H1	3,809	15.7	3,943	16.0	3,125	14.2	3,034	13.9
			H2	3,954	16.3	3,956	16.0	3,405	15.5	3,064	14.0
			その他(H3、H4)	3,437	14.2	3,570	14.5	3,169	14.4	3,032	13.9
			小計	14,773	61.0	14,729	59.7	12,733	57.8	12,307	56.3
		シュレッダースクラップ	1,952	8.1	2,004	8.1	1,733	7.9	1,695	7.8	
		プレススクラップ	647	2.7	635	2.6	572	2.6	529	2.4	
		鋼ダライ粉(含Dプレス)	2,007	8.3	2,172	8.8	2,088	9.5	2,011	9.2	
		その他	316	1.3	403	1.6	399	1.8	471	2.2	
		計	23,485	97.0	23,943	97.0	21,346	97.0	21,064	96.4	
		銑スクラップ	731	3.0	738	3.0	668	3.0	782	3.6	
		合計	24,216	100.0	24,681	100.0	22,015	100.0	21,845	100.0	

加エスクラップ	6,489	26.8	6,876	27.9	6,530	29.7	6,807	31.2
老廃スクラップ	17,727	73.2	17,804	72.1	15,484	70.3	15,038	68.8

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

1,000M.T



図表11 鉄スクラップの品種別購入量（2016年）

単位：1,000M.T

品種		メーカー所在地	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	合計
		配合甲山（可鍛コ口）				0.1			3.3	20.0	12.0
新断スクラップ（含新断プレス）			18.2	284.3	611.4	53.1	1,274.5	919.4	339.4	514.2	4,014.7
炭素鋼スクラップ	ヘビースクラップ	HS	62.2	45.3	505.2	118.0	777.1	804.7	542.3	321.6	3,176.3
		H1	63.2	181.6	638.4	55.2	357.8	1,261.2	303.1	173.3	3,033.7
		H2	46.6	172.2	929.7	204.3	529.3	483.1	320.8	378.2	3,064.2
		その他（H3、H4）	89.1	141.7	594.5	295.1	502.4	726.0	380.0	303.6	3,032.5
		小計	261.2	540.8	2,667.7	672.6	2,166.6	3,275.0	1,546.2	1,176.7	12,306.7
国内購入スクラップ	シュレッダースクラップ	A	68.1	68.7	449.0	82.7	241.4	216.6	144.7	173.5	1,444.8
		B	16.5	2.1	88.3	34.8	54.3	31.9	18.4	3.9	250.2
	プレススクラップ	A	5.3	0.0	39.4	8.7	43.7	11.8	17.8	14.7	141.4
B		5.9	0.1	0.6	1.1	3.0		5.4	1.5	17.7	
C		14.9	31.1	106.3	3.2	36.3	112.7	28.5	37.2	370.2	
鋼ダライ粉（含Dプレス）			16.2	55.6	431.9	43.2	663.3	540.0	184.6	76.1	2,010.8
その他			6.0		146.8	6.6	67.9	191.9	38.7	13.4	471.3
計			412.4	982.8	4,541.5	906.1	4,551.0	5,302.7	2,343.8	2,023.3	21,063.5
銑スクラップ				35.3	122.8	35.8	105.3	346.7	78.7	57.2	781.8
合計			412.4	1,018.1	4,664.3	941.9	4,656.3	5,649.4	2,422.5	2,080.5	21,845.4

加エスクラップ	34.4	375.3	1,166.1	132.1	2,043.1	1,806.1	602.7	647.6	6,807.4
老廃スクラップ	378.0	642.8	3,498.2	809.8	2,613.2	3,843.3	1,819.8	1,433.0	15,038.0

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表12 鉄スクラップの品種別国内出荷量 (2016年)

単位: 1,000M.T

品種		供給業者所在地		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	その他	合計	
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山(可鍛コロ)				0.1			11.8	11.6	12.0		35.4	
		新断スクラップ(含新断プレス)		16.7	144.5	788.5	70.7	1,378.2	628.6	483.7	503.6	0.2		4,014.7
		ヘビースクラップ	HS	62.2	86.7	544.6	106.1	794.6	507.0	714.2	359.0	1.9		3,176.3
			H1	63.4	189.7	687.9	92.9	410.2	1,027.9	317.1	244.4	0.2		3,033.7
			H2	46.6	206.0	975.7	159.7	562.5	355.8	315.3	441.0	1.7		3,064.2
			その他(H3、H4)	89.2	192.5	652.6	225.5	540.9	616.0	284.1	429.2	2.5		3,032.5
		小計		261.4	674.9	2,860.9	584.2	2,308.1	2,506.7	1,630.7	1,473.6	6.3		12,306.7
		シュレッダースクラップ	A	71.7	75.7	470.0	74.2	226.5	208.8	125.8	192.0	0.1		1,444.8
			B	16.8	3.7	89.5	30.8	56.8	30.0	19.2	3.4	0.0		250.2
		プレススクラップ	A	5.3	1.2	38.2	13.4	44.2	4.3	18.9	15.9			141.4
			B	5.9	0.2	0.6	1.0	3.1		5.1	1.8			17.7
			C	14.9	28.9	123.0	5.3	51.3	78.6	30.1	37.6	0.4		370.2
		鋼ダライ粉(含Dプレス)		16.2	59.6	430.8	79.8	685.3	465.5	195.9	77.7	0.0		2,010.8
		その他		6.0	3.6	148.6	7.0	70.0	173.8	24.4	37.8			471.3
		計		415.0	992.1	4,950.2	866.4	4,823.5	4,108.1	2,545.5	2,355.5	7.1		21,063.5
		銑スクラップ			22.7	171.7	21.0	112.5	159.2	65.0	200.4	29.3		781.8
		合計		415.0	1,014.8	5,121.9	887.4	4,936.1	4,267.4	2,610.5	2,556.0	36.4		21,845.4
加エスクラップ		32.9	226.8	1,391.0	171.4	2,176.0	1,253.3	744.6	781.7	29.5		6,807.4		
老廃スクラップ		382.1	788.0	3,730.9	716.0	2,760.0	3,014.0	1,865.9	1,774.2	6.8		15,038.0		

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表13 鉄スクラップの品種別購入比率 (2016年)

単位: %

メーカー所在地		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	合計		
		品種										
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山(可鍛コ口)			0.0			0.1	0.8	0.6	0.2	
		新断スクラップ(含新断プレス)	4.4	27.9	13.1	5.6	27.4	16.3	14.0	24.7	18.4	
		ヘビースクラップ	HS	15.1	4.4	10.8	12.5	16.7	14.2	22.4	15.5	14.5
			H1	15.3	17.8	13.7	5.9	7.7	22.3	12.5	8.3	13.9
			H2	11.3	16.9	19.9	21.7	11.4	8.6	13.2	18.2	14.0
			その他(H3、H4)	21.6	13.9	12.7	31.3	10.8	12.9	15.7	14.6	13.9
		小計	(63.3)	(53.1)	(57.2)	(71.4)	(46.5)	(58.0)	(63.8)	(56.6)	(56.3)	
		シュレッダースクラップ	A	16.5	6.8	9.6	8.8	5.2	3.8	6.0	8.3	6.6
			B	4.0	0.2	1.9	3.7	1.2	0.6	0.8	0.2	1.1
		プレススクラップ	A	1.3	0.0	0.8	0.9	0.9	0.2	0.7	0.7	0.6
			B	1.4	0.0	0.0	0.1	0.1		0.2	0.1	0.1
			C	3.6	3.1	2.3	0.3	0.8	2.0	1.2	1.8	1.7
		鋼ダライ粉(含Dプレス)	3.9	5.5	9.3	4.6	14.2	9.6	7.6	3.7	9.2	
		その他	1.5		3.1	0.7	1.5	3.4	1.6	0.6	2.2	
		計	(100.0)	(96.5)	(97.4)	(96.2)	(97.7)	(93.9)	(96.8)	(97.2)	(96.4)	
		銑スクラップ		3.5	2.6	3.8	2.3	6.1	3.2	2.8	3.6	
		合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

加エスクラップ	8.3	36.9	25.0	14.0	43.9	32.0	24.9	31.1	31.2
老廃スクラップ	91.7	63.1	75.0	86.0	56.1	68.0	75.1	68.9	68.8

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表14 鉄スクラップの品種別構成比（2016年）

単位：％

メーカー所在地		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	合計		
		品種										
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山（可鍛コロ）			0.2			9.4	56.4	34.0	100.0	
		新断スクラップ（含新断プレス）	0.5	7.1	15.2	1.3	31.7	22.9	8.5	12.8	100.0	
		ヘビースクラップ	HS	2.0	1.4	15.9	3.7	24.5	25.3	17.1	10.1	100.0
			H1	2.1	6.0	21.0	1.8	11.8	41.6	10.0	5.7	100.0
			H2	1.5	5.6	30.3	6.7	17.3	15.8	10.5	12.3	100.0
			その他（H3、H4）	2.9	4.7	19.6	9.7	16.6	23.9	12.5	10.0	100.0
		小計	(2.1)	(4.4)	(21.7)	(5.5)	(17.6)	(26.6)	(12.6)	(9.6)	(100.0)	
		シュレッダースクラップ	A	4.7	4.8	31.1	5.7	16.7	15.0	10.0	12.0	100.0
			B	6.6	0.8	35.3	13.9	21.7	12.7	7.4	1.6	100.0
		プレススクラップ	A	3.8	0.0	27.8	6.2	30.9	8.4	12.6	10.4	100.0
			B	33.4	0.5	3.4	6.4	17.1		30.4	8.7	100.0
			C	4.0	8.4	28.7	0.9	9.8	30.4	7.7	10.0	100.0
		鋼ダライ粉（含Dプレス）	0.8	2.8	21.5	2.1	33.0	26.9	9.2	3.8	100.0	
		その他	1.3		31.2	1.4	14.4	40.7	8.2	2.8	100.0	
		計	(2.0)	(4.7)	(21.6)	(4.3)	(21.6)	(25.2)	(11.1)	(9.6)	(100.0)	
		銑スクラップ		4.5	15.7	4.6	13.5	44.3	10.1	7.3	100.0	
		合計	1.9	4.7	21.4	4.3	21.3	25.9	11.1	9.5	100.0	
加エスクラップ		0.5	5.5	17.1	1.9	30.0	26.5	8.9	9.5	100.0		
老廃スクラップ		2.5	4.3	23.3	5.4	17.4	25.6	12.1	9.5	100.0		

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。